

7-3 ジオパークを活かした持続可能な地域振興

ジオパークは持続可能な開発という枠組みの中で経済活動を活性化させることを主要戦略目標の一つに掲げている。

西予市では、地域の特色を生かし住民自らが考え実践するために、せいよ地域づくり交付金事業による住民主体の地域づくりや市内分権が積極的に進められている。地域によって慣習や伝統文化などは実に様々であり、ニーズも多様化しているが、課題を地域自らの手で解決に導くことで活力ある西予市を目指している。今後は市民のジオパーク活動の醸成を図りながら、ジオパークを活かした産業振興を通して新たな経済循環につなげることにより持続可能な地域社会の形成を実現する。

(1) せいよ地域づくり交付金を活用したジオパーク活動

計 画 内 容

ジオサイトを活用した住民主体による地域づくりへの取組みを推進し、他地域との交流促進を図る。

1. 現状・課題

地域主権の発想のもと「自分達の地域は自分達の手で」を掲げ、地域住民の主體的な取組みによる地域づくりを目的に平成23年度からせいよ地域づくり交付金事業を実施している。

事業実施主体である各地域づくり組織において、地域独自の特産品の開発やコミュニティの活性化、地域資源をジオパーク活動へと結び付ける機運等が徐々に育まれつつあるが、これらの動きをより促進し真に市民主体の活動とすることが求められている。

2. 計画詳細

地域づくり組織は、各々のエリアに所在するサイトを地域資源として、自分達が住む地域の魅力を同組織のメンバーである市民が主体となって外部へ発信していくとともに、サイトを活用した他地域の市民との交流事業を実施し、「地域住民の手によるジオの魅力発信」を達成する。

また、地域のジオパーク活動が継続的な取り組みとなるように、ジオツアー等に積極的に取り組んでいく必要がある。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
地域づくり組織のメンバーを対象としたジオパーク研修											

4. 達成目標

- ジオの魅力発信や交流事業を実施する組織の数

令和元年度 4団体以上、令和2年度 5団体以上、令和3年度 6団体以上

(2) 地域の文化や文化遺産、技術継承への支援

計画内容

地域づくり組織等と連携し、ジオとのつながりのある文化遺産や伝統技術の継承を図る。

1. 現状・課題

四国山地と宇和海が育んだ四国西予ジオパークには、海・里・山を背景に時代を超えて受け継がれてきた多様な文化や文化遺産、伝統技術が存在している。しかし、市民の高齢化が進み、これらが失われてしまうことが懸念される。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、地域づくり組織や関係部署、民間事業者、専門家等と連携して、これらの文化や文化遺産、伝統技術、伝統工芸品、地域の食文化などに関して、ジオストーリーでの位置づけやテーマとの関連性を明らかにし、継承に向けて支援する。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
洗い出し											
ジオストーリーの構築											

4. 達成目標

■ジオストーリーが整理でき、外部への情報発信が可能となった伝統文化や工芸品などの数 年1件以上の増加

(3) ジオパーク活動に主体的に取り組む市民層の拡大

計 画 内 容

ジオパーク活動を通じて経済的・精神的満足度が高まり、生きがいを感じることができる市民を増加させる。

また、多様な参加者による自由な経済活動への支援を行う。

1. 現状・課題

ジオパークが持続的に発展するためには、地域住民や企業、団体など多様な参加者の経済的・精神的満足度を高めることが重要であるが、市民の主体的な取り組みが十分広がっているとは言えない。

また、ジオパーク応援店制度もスタートしたばかりであり、今後の取り組みを進めていく必要がある。

2. 計画詳細

地域住民や地元企業、団体との定期的なコミュニケーション及び情報共有の場を設け、自由な発言に基づいてボトムアップで形成されたジオパーク活動を推進する。

また、経済振興課や商工業組織、農林水産業組織、大学等と連携して、多様な参加者による自由な経済活動を支援する。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
支援制度の周知											
出前講座の実施											
応援店制度の充実											

4. 達成目標

■ジオの魅力発信や交流事業を実施する団体・組織の数

令和元年度 3件以上、令和2年度 4件以上、令和3年度 5件以上

(4) ジオ認定ブランド「四国西予ジオの至宝」の推進

計 画 内 容

関係部署と連携して、四国西予ジオパークに関わるジオストーリーを語ることでできる産品をジオブランドとして認証する「四国西予ジオの至宝」制度をさらに充実させる。

1. 現状・課題

海拔 0mからの標高 1,400m までの標高差を有する市内特産品は代表的な柑橘のほか、魚介類、米、ぶどう、栗、乳製品、畜産品などがあり、1つの自治体としては全国でも有数の多品目産地である。また、これらを活用した加工品も数多く存在する。それら多くの特産品は地形や気候といった大地の影響を受けたジオの恵みであり、これらの商品は四国西予ジオパーク内のジオサイトと同様にジオストーリーを語るができる潜在性を有しており、地域におけるジオパークを活用した新たな産業の仕組みづくりを進める必要がある。

2. 計画詳細

四国西予ジオパークの持つ多様な生産環境を活かした産品や、大地との関係が明確でありジオとのストーリー性を有する品目については、他産品との差別化・ブランド化を図ることで、一歩踏み込んだ形でジオパークを活用できる仕組み「四国西予ジオの至宝」を平成 28 年度に制度化した。ジオパーク推進室、経済振興課、農業水産課が一体となり地域内の 1 次産品と産業のマッチングを推進しながらジオの恵みを活かしたブランド化による商品価値の向上を図り、地域産業の活性化をさらに促すため、ジオブランド認証制度「四国西予ジオの至宝」の推進に積極的に取り組む。ジオブランドに認定された産品については、市内外での PR や都市部でのマッチングをはじめ、市及び関係団体等が連携して、消費並びに販路拡大を強力に支援する。



奥地アジ関連商品 4 品



明浜産真珠ネックレス～つなぐ～



カマンベールチーズ 森のろまん



田力米

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
募集・相談会・認定											
ブランド品 PR											

4. 達成目標

■ブランド認証商品数（累計）

令和元年度 8 件以上、令和2年度 10 件以上、令和3年度 12 件以上

(5) ロゴマークの活用

計 画 内 容

ロゴマークの使用方法や活用例を広く周知することで四国西予ジオパークロゴマークの各種媒体や関連農産品への使用を促し普及に努める。

1. 現状・課題

四国西予ジオパークを表現したシンボルマークであるロゴを定めており、営利目的でなければ誰でも自由に使用することができる。また、営利目的であっても四国西予ジオパーク推進協議会へ使用許可申請書を提出することにより幅広く利用することができる。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、ロゴマークの普及をさらに進めるために、平成27年度に制定した「利用に関するガイドライン」に準じて、広報誌やHPを通じてロゴマークの解説や利用について市民へ広く周知を行う。市民活動をはじめとする各種イベントやジオパーク応援店、市内の1次産品を活用した地域産業等への使用を促す。

さらに、市外に広く流通する商品包装等への活用や手軽に利用可能なロゴシールの作成検討を進める。



活用例1(木製名札ケース)



活用例2(サイクリング IN 四国西予 GP)

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
使用方法の広報・周知											
申請受付											

4. 達成目標

- ロゴマーク新規使用承認年間件数 2件以上

7-4 持続可能なジオツーリズムの創出と推進

ジオパークで行われるジオツーリズムは、地質・地形、生物、生態系、地域の文化を、単なる観光資源として開発するものではなく、保全を優先したうえで賢明な利用を図る持続可能な開発の方法論に基づくものではないといけない。

(日本ジオパークネットワークの自然資源保全に関する指針より)とされている。

つまり、地域の自然や文化と深く繋がっている地球遺産の価値を楽しみながら学んでもらうことを通じて、それらを保全したくなる気持ちにさせることを基本に据えたツアーやガイドでなければならない。

そういった視点を基本に持ちながら、ジオツアーの造成やジオガイド養成に取り組む。

(1) 市内事業者や組織等と連携した多様性を感じられるジオツアー

計画内容

市内事業者や組織・団体、ジオガイド等と連携することにより、地質・地形や、生態系、文化、人々の暮らしといった四国西予ジオパークならではの多様性を感じられる魅力的なジオツアーを展開する。

1. 現状・課題

平成30年7月豪雨災害の影響もあり、昨年度の西予市における総観光客数は減少しており、特にジオガイド付きのツアー客は大きく落ち込んでいる。市内各地の復旧と併せて、今後ジオツーリズムの環境を整備していく必要がある。

四国西予ジオパークは四国山地から宇和海海岸部に広がる東西約50キロ、南

北約 10 キロの中に、人々が暮らしている場所の標高差が 1,400m あり、地質・地形や気候、生態系、文化には豊かな多様性が見られる。

これら、多様性を感じられるジオツアーの資源は豊富ではあるが、ツアー化できているものはまだ少なく、これまでも市外の旅行業者が企画したジオツアーが単発的に行われてきたのみである。

さらに、地域に存在するありのままの風景を体感しながら歩く「フットパス」といった手法で来訪者に自分たちの住む地域を楽しんでもらう組織も現れてきた。ジオパークとは親和性が高い取り組みだと思われる。

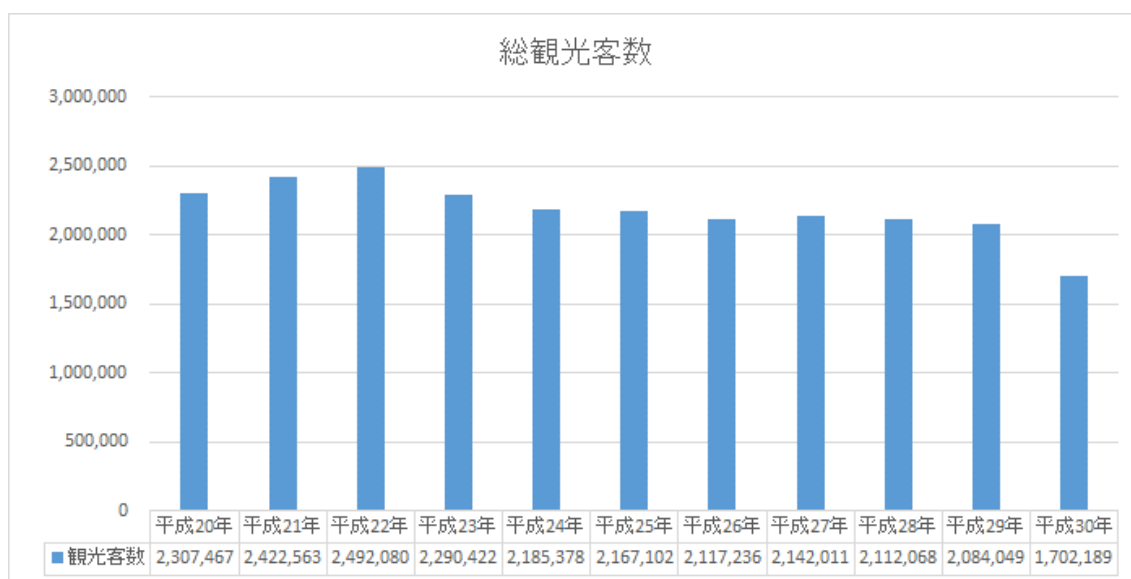


図 4. 西予市への総観光客数

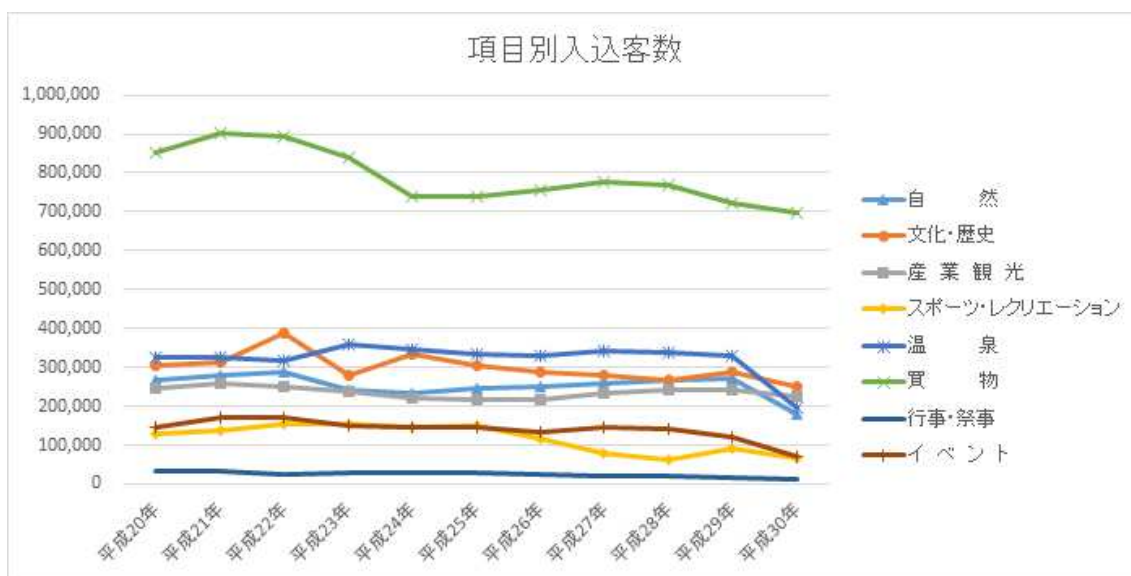


図 5. 西予市への項目別入込客数

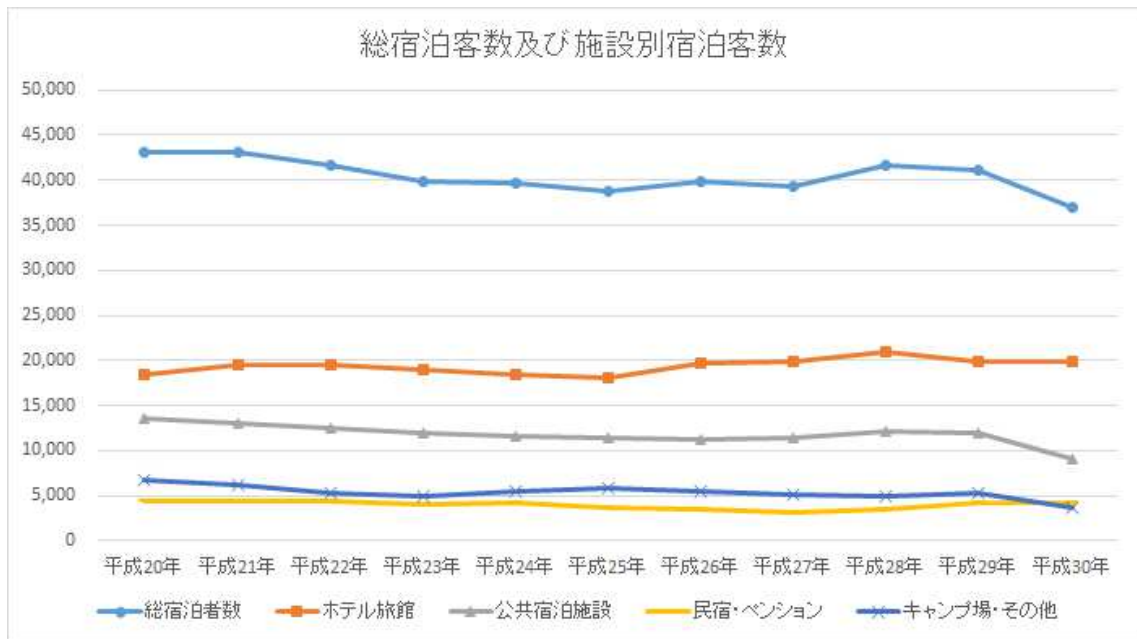


図6.西予市における総宿泊客数及び施設別宿泊客数

2. 計画詳細

四国西予ジオパークを訪れる多くの来訪者のニーズを捉えるためには多様性を楽しめるガイド付きツアーコース設定を行う必要がある。客層や移動手段等を踏まえた魅力的なジオツアーを民間企業及び団体、NPO 法人等が企画、実施するために、経済振興課、スポーツ・文化課、ジオパーク推進室、四国西予ジオパーク推進協議会等が連携してコース設定への環境整備や活動支援を行う。

併せて、地域の価値を再評価して関係者等で共有し、“売れる”ストーリーをつくり、認知度を高める努力を行う。

さらに、利用者の情報や満足度のアンケートを実施するなどのマーケティングを行い、市内の観光事業者等とも連携してジオパークの理念に沿った魅力的なジオツアーを造成する。

また、フットパスは、個人の居宅付近や、地域管理の道を通ることが常であり、地域資源への理解やそれらをつなぐ道の清掃など、地域の協力が不可欠であるため、地域組織等による主体的な取り組みに対して積極的な支援を行う。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
モニターツアーの実施											
関係者との意見交換											
旅行商品企画・造成											
定期的ツアーの催行											

4. 達成目標

■市内観光事業者等と連携したジオツアー催行件数

令和2年度 4件、令和3年度 5件

(2) ジオガイドの養成

計 画 内 容

継続したジオガイドの養成によりガイドの質の向上を図るとともに、新規ジオガイドの確保を目指す。

1. 現状・課題

ガイドの資質向上とガイド業務の適正な運営を確保し、訪問者へのサービス向上を図るために認定ジオガイド制度ができあがった。

また、平成24年度より各地域で開催し、平成30年度からは「せいよ自然と暮らしのカレッジ」と銘打って進めている四国西予ジオガイド養成講座やステップアップ研修を継続することで、さらなる人材発掘とジオガイドの自立支援を行う必要がある。

2. 計画詳細

平成30年度には、ジオサイトやジオパーク内の見どころ、動植物、文化などの基本的な情報をまとめた四国西予ジオパークガイドブックを出版した。ジオガイドへの配布や道の駅での販売を行っており、その活用を図る必要がある。

ジオパーク推進室は、訪問者に対してより安心して適切なガイドを提供するために、四国西予ジオガイド養成講座や認定ジオガイドのスキルアップへの支援等を継続的に実施することによりガイドの質の向上を図るとともに、新規ジオガイドの確保を目指す。講座では、地質、地形、生態系、文化等を専門とする講

師や県立博物館、愛媛大学、スポーツ・文化課等と連携することでジオガイドとしての基礎知識や接遇マナーの向上を図り、四国西予ジオパークを案内することができるガイド養成に取り組む。また、ガイドをボランティアではなく、一つの観光産業と位置付け、ガイド団体が作成するモデルコース及びツアーの企画といっ



ジオガイド養成講座

た主体的活動を強化しジオガイドとして自立できる体制作りを支援する。

ジオパーク推進室は、ジオガイドやジオガイドを志す市民がスムーズにガイド業務に取り組むために、最も基本的な情報を取りまとめたガイドブックの活用を図り、ジオガイドがそれによる円滑なガイド業務遂行の支援と、ジオガイド各人の知識均一化と質の向上、基本情報の共有に取り組む。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
ステップアップ研修 の開催											
新規ジオガイド養成 講座の開催											

4. 達成目標

■認定ジオガイドの数(累計)

令和元年度 10人 令和2年度 13人 令和3年度 16人

■ジオガイドが観光客にガイド業務を行った件数(年間)

令和元年度 30件 令和2年度 35件 令和3年度 40件

(3) 国際交流、インバウンドへの対応

計 画 内 容

海外のジオパークや留学生等との交流を進めながら、国際化に対応し外国人も楽しめるジオツアーへの環境整備を進める。

1. 現状・課題

インドネシアでジオパークを目指しているゴロンタロ大学や、愛媛大学の留学生が、ジオサイトを有する市内地域への滞在等を通じての国際交流を図っているがジオパークを訪れる外国人観光客はまだ少数である。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、愛媛大学や市民と連携してインバウンド※1に対応するため、パンフレットや看板等の多言語化を図っていく。また、モニターツアー等の実施により、外国人向けの体験ツアーメニューを開発する。



ゴロンタロ州立大学留学生視察

※1) 外国人が訪れてくる旅行のこと

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
パンフレットや看板等の多言語化											
体験ツアーのコース設定											
ツアーの開催											

4. 達成目標

■多言語化に対応したアイテム数

令和元年度 2件以上、令和2年度 3件以上、令和3年度 4件以上

■外国人対応のツアーコースの数

令和元年度 1件、令和2年度 2件、令和3年度 3件

(4) 交通網の充実と利便性の向上

計 画 内 容

公共交通機関や民間業者等との連携強化を図り、エリア内を巡る交通手段の強化や利便性の向上を図る。

1. 現状・課題

四国西予ジオパーク内の各ジオサイトへのアクセスについては、道路網や公共交通等が十分に整備されていないことから各地を巡る交通手段が非常に乏しく、関係業者との連携も希薄である。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、来訪者が容易にかつ効率的にエリア内を移動できるように公共交通機関や民間タクシー業者、レンタカー事業者等との連携を強化するとともに、タクシーや駅舎内におけるパンフレットの設置、事業者へのガイド学習を進めることによる利便性の向上に取り組む。

また、将来的には、マイカーを利用できない市民や観光客が気軽にジオパークを体験してもらうために、市内中心部と、どんぶり館やシルク博物館、乙亥会館、令和4年度オープン予定のジオミュージアム、ギャラリーしろかわ、きなはい屋等の城川中心部の施設、宝泉坊関連施設を結ぶ西予市横断型のバス路線造成の可能性について検討する。

さらに、道路網の未発達がアクセスの大きな障壁となっていることから国道や県道の整備促進について長期的な視点をもって継続的に要望を行っていく。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
事業者との協議											
従業員のジオパーク学習											

4. 達成目標

■パンフレットやホームページに掲載できる事業者数

令和元年度 1件、令和2年度 2件、令和3年度 3件

7-5 学習・教育活動への活用

ジオパークは地質遺産だけではなく大地の成り立ちや生態系や人々の営みまでを対象としており、地域の魅力を知り、持続的な地域社会を創っていくためには絶好の教材であることから、今後も市民や教育現場を対象とした出前講座や現地学習等を通じて四国西予ジオパークについて学ぶ機会を設ける。

また、「持続可能な開発目標(SDGs)」達成のために意識・行動の変革をもたらす学び(ESD)の役割は重要である。そのため、総合学習やPTA活動の一環としてジオパーク学習を積極的に取り込み、若い世代の地域への誇りや地元の価値への気づきを喚起するとともに、地域への関心を高める必要がある。

(1) 市民へのジオパーク学習

計 画 内 容

地域や団体・組織のニーズに合わせて出前学習や意見交換等を行うとともに、ジオサイトや地域の無形文化遺産等を活用した市民向けのジオツアーや学習会を行うことによって、ジオパークに関する幅広い知識を学ぶ学習機会の創出を図る。

1. 現状・課題

ジオパークに関心がある人、自分が住んでいる地域のジオサイト、さらには他地域のジオサイトを知っている人はまだ多くないと考えられる。ジオパークのエリア内での生涯学習プログラムを継続して実施する必要がある。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、四国西予ジオパークの普及・啓発に努め、地域間の交流を促進するために、生涯学習課やスポーツ・文化課、経済振興課、環境衛生課、危機管理課等と連携し、市民への出前講座やジオガイド付きのジオパーク学習会を行い、市民と一体となったジオパーク活動



せいよ自然と暮らしのカレッジ

を推進する。

また、平成30年度から実施している「せいよ自然と暮らしのカレッジ」のフィールドワークを継続的に開催する。当該事業は専門機関や市役所の他部署、地域に詳しい市民等と連携し、地域内を様々な視点から見て歩くことで、新たな見どころや風景の発見につなげ、ジオパークの楽しみ方が理解できるよう工夫している。防災学習の観点からも地域の地形や地質に対しても関心を高める。

市民ジオツアーについては、ジオガイドの利用を促し、よりジオパークへの理解を深めるとともに、ジオガイドが活躍できる機会の拡大を図る。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)						
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
ジオパーク学習会の開催														
出前講座の開催														
市民ジオツアーの開催														

4. 達成目標

- 市民対象としたジオパーク学習会の開催件数 年5件以上
- 市民が参加するジオツアー件数 年10件以上
- 出前講座の開催件数 年5件以上

(2) 児童生徒へのジオパーク学習

計 画 内 容

教育部局等と連携し市内教育現場での出前授業や野外学習、食育を継続して行うことで、四国西予ジオパークを通じた地域学習や自然科学・人文科学等への学びを促進する。

1. 現状・課題

西予市教育基本方針の中では、ジオパーク学習に積極的に取り組むことが明記されている。教育現場において四国西予ジオパークを活用しやすいように、市教委の学校教育課内に学校側の受け入れ窓口を設置し、ジオパーク推進室に学校側の希望内容等をつなぐ体制を整備した。また、市教委も学校のジオパーク学習に教育振興基金の活用を可能とし、学校に経費負担が生じないような仕組み